

# こづるにし いせき 小鶴西遺跡

所在地：東茨城郡茨城町小鶴字西 1436 番地 2 ほか

調査期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

調査面積：9,727 m<sup>2</sup>

委託者：水戸土木事務所

調査原因：主要地方道大洗友部線バイパス事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団(茨城町事務所)

TEL029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>

## 遺跡の立地と歴史的環境

小鶴西遺跡は、茨城町北西部、涸沼川左岸の標高約5mの低地から微高地に位置しています。

茨城町は、縄文時代の越安貝塚や小堤貝塚、弥生時代の小鶴遺跡、古墳・平安時代の奥谷遺跡など、古くから人々の生活が営まれていた地域です。また中世には、高台に小幡城や飯沼城、天古崎城などの城館が築城され、江戸氏や宍戸氏などが覇権を争った地域でもあります。これらの遺跡は、涸沼や涸沼川水系の沿岸の台地上に位置しており、水運など涸沼川を利用・活用し、成立した遺跡と考えられます。

## 調査の成果

今年度の調査は、昨年度、緡銭が出土した遺跡の中央部から東部の調査を実施しています。これまでの調査では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡、火葬施設、墓坑、堀跡、溝跡などを確認し、中世の他に古墳時代や平安時代の集落跡を新たに確認しました。

東端部の調査区では、竪穴住居跡20棟(古墳3・平安17)、掘立柱建物跡3棟(古墳1・平安1・室町1)、方形竪穴遺構2基(室町)、堀跡2条(室町)、道路跡1条(室町)などを調査しました。

古墳時代の遺構は、調査区の南半部で確認したことから、調査区の南側に集落が広がっていると考えられます。高床式の倉庫とされる総柱建物跡も見つかりました。穀物類などを保管した倉庫と考えられることから、涸沼川を利用した物資の集積地と想定されます。

平安時代の遺構は、調査区の全域で確認しました。竪穴住居跡の中には、竈の両脇に棚状遺構をもつものがあります。棚状遺構については、土器などの置き場や祭壇とする諸説があります。また、墨書が記された土師器が出土しており、有識者が存在した集落であったことが考えられます。

室町時代の遺構では、長さ約75m、上幅3m、深さ1.5mの堀跡を確認しました。堀跡の断面形は葉研状で、堀底を意図的に歩きにくくした構造となっています。堀に囲まれた範囲内には遺構がほとんどなく、戦時での兵站(後方支援などの兵の駐屯や武器、食料などの保管場所)に利用する空地的な空間であった可能性も考えられます。



小鶴西遺跡周辺の主な遺跡と城館跡分布図



### 第24号堀跡

堀が南に向かって折れ曲がっています。また堀の断面形は葉研状で、堀に進入した敵兵の移動を妨げる構造をしており、防御性に富んだ堀と言えます。



### 第4号竪穴住居跡

2棟の竪穴住居が重複しています。新しい方の建物からは、竈の両脇に粘土を部分的に用いて構築した棚状遺構が確認できました。当遺跡では、棚状遺構をもつ竪穴住居がほかに2棟確認されています。



### 第24号掘立柱建物跡

規模は、南北4.2m、東西4.4m、柱間は1.8～2.4mで、総柱の掘立柱建物物跡になります。柱穴は径1m前後で、深さは0.4～0.6mです。古墳時代の土師器片が出土しており、調査区南側の竪穴住居と同時期の建物と考えられます。



- 古墳時代
- 平安時代
- 室町時代

東端部調査区の全体図

0 (1:500) 8m

### 第1号道路跡

南北方向に波板状の凹凸を確認しました。凹部からは、内耳土器片が出土しています。堀に掘り込まれていることから、堀以前の道路であることがわかりました。

